令和６年度　学校経営計画表

1　学校の現況

学校番号	40	学校名	県立鹿島高等学校	課　程	全日制・普通科	学　校　長　名	小沼　浩幸
教　頭　名	青木　重雄		十文字　富美絵			事務（室）長名	荒張　明

教職員数	教諭	講師(本)	養護教諭	実習助手	常勤講師	非常勤講師	事務職員	技術職員等	計
	45	1	1	1	3	0	4	4	59

生徒数 700	小学科	１年次		２年次		３学年		合　計		合　計 クラス数
		男	女	男	女	男	女	男	女	
	普通科	112	128	115	123	96	126	323	377	18

2　目指す学校像

【教育方針】
◇【自治】道義と秩序を重んじ、自己に責任をもつ、自主・自立の実践を図る学校
◇【勤勉】学問尊重と真理を求める気風の育成を図る学校
◇【快活】自他の敬愛と協力による豊かで快活な生活態度の樹立を図る学校

3　三つの方針（スクールポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	卒業までに次のような生徒を育成します。 (1)　思考力・判断力・表現力を身に付け、主体的に課題発見・解決に取り組む生徒 (2)　国際感覚を身に付け、グローバル化が進展する社会で活躍できることのできる生徒 (3)　「自治・勤勉・快活」の校訓にもとづき、地域や国際社会のリーダーとなることのできる生徒
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 【知】　コース選択制、進学重視型単位制を活かした教育課程を編成及び実施し、生徒一人一人の学力向上と進路実現を図る学校 【徳】　カリキュラム・マネジメントを推進し、探究学習、キャリア教育等を充実させ、課題発見・解決能力、豊かな人間性と社会に貢献できる力を育成する学校 【体】　特別活動、部活動等への生徒の主体的な取組を推進し、心身の健全な育成を図る学校
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	次のような生徒を求めています。 (1)　探究心があり、学習意欲の高い生徒 (2)　地域や国際社会に貢献する意欲の高い生徒 (3)　諸活動に積極的に取り組み、自分と集団を成長させる意欲の高い生徒

４　現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項　目	現　状　分　析	課　　題
学習指導	自らの意志で主体的に学ぼうとする生徒がいる反面、基礎学力の定着や学習意欲が不十分な生徒もいて、学力や学習意欲に差が見られる。 部活動との両立を支援し、多様化する学習環境への対応が望まれる。	基礎学力の定着や主体的な学習態度の育成に向け、ＩＣＴ機器を活用しながら、アクティブ・ラーニングの視点から「わかる授業」を目指し、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、「総合的な探究の時間」の充実に努める。
進路指導	近年、国公立大学合格者数は 10 名前後で推移している。また、早期に進路決定したいという焦りからか、安易な進路選択に陥るケースも少なくない。学力を効果的に伸長させるとともに、生徒自身が納得して自分で進路を決める後押しをしていく。それに伴って国公立大学及び難関私立大学の合格者が増えることが理想である。学年や教科間で連携し、効果的な方法を共有・研究するなど、学校全体で取り組むことが急務である。就職希望の生徒はこれまでと比較して減少傾向が見られるが、地元企業への就職希望者は一定数存在するので、こちらにも手厚い対応が必要である。	進路実現に向け、キャリア教育の充実を図り、組織的・計画的及び継続的な進路指導をとおして、生徒の進路実現を推進する。 　進学重視型単位制移行に伴い、これまで以上に大学進学支援の充実に努める。
生徒指導	生徒は、おおむね規範意識及び基本的生活習慣が確立されている。特別な理由のある生徒以外に、怠学的な欠席・遅刻・早退をする生徒は殆どいない。容姿面における指導では、頭髪の色や型において指導される生徒は若干名であり、女子制服のスカート丈については規定に反している生徒はほぼいない。女子ソックスについても規程の範囲に殆どおさまっている。 交通面において、登下校時の自転車の運転マナーについて外部から指摘されることが若干あるが、おおむね改善されている。しかし、自転車乗車中の車との接触事故が思いの外発生していることから、交通事故への危機意識の不足がうかがえる。	職員の共通理解・行動を重視する。生徒の規範意識の確立を図る。また、個に応じた指導体勢を構築する。 自転車乗車マナーの徹底と危機意識の向上およびヘルメット着用の義務化の推進により、重大事故防止に努める。また、加害者になり得ることを想定し、損害賠償保険加入を推奨する必要がある。
特別活動	学校行事においては、生徒会が主体的に企画・運営していることから、生徒が自ら積極的に参加し盛況に実施されている。ホームルーム活動については、時間的な制約もあり、計画通りの運営に困難を来すことがある。行事・ホームルームの際に活動記録、自己の振り返りとしてキャリアパスポートを作成し、記入いている。生徒の部活動に対する活動意欲は高く、今後更なる活性化が望まれる。ボランティア活動では３年生を中心に多くの生徒が積極的に参加しており、地域から高い評価を得ている。本校生の活動が地域社会に浸透し、社会貢献できるよう、更なる働きかけと活動に拍車をかけていきたい。	ホームルーム活動の内容の充実を図る。生徒集会や文化祭等の学校行事を生徒主体で企画・運営できるよう支援する。部活動の活性化と働き方改革の両立に向けた取り組み、1、2 年次生のボランティア活動への参加意欲を高める指導工夫も必要である。また、各行事において、コロナ後の新しい形を構築する。
渉　　外	学校の教育活動を含む全般に対する保護者からの関心が高く、ＰＴＡ活動は活発である。だがＰＴＡ総会における参加率がまだまだ低い。総会参加率をさらにあげる工夫をする。同窓会活動では創立 110 周年事業を終えて、同窓会役員の改選を行い、さらに充実した同窓会活動をしていく。学校、保護者、同窓会が互いに協力して、よりよい学校運営ができるように努力したい。	生徒の学校における生活状況等の情報を保護者に提供し、共通理解を図るとともに、学校、保護者、同窓会が連携しやすい体制を作る。また、同窓会組織において女性会員の参画を促していく。

学習研究	これまでの各学年における進路学習指導は、主に総括役の進学クラスの担任が一人で担当していた。学科改編に伴い、彼らが行っていた仕事を校務分掌や学年のメンバーに分散化・明確化することでより一層の効果を上げることが求められる。特に今まで学年主導で行っていた小論文・探究的な学習を効果的に進めていけるような体制作りが求められる。担任を中心とした小論文指導計画の作成に始まり、次に全職員を対象とした小論文の書き方説明会や志望理由書の書き方説明会や探究活動についての教員研修実施などの参加を促し、個人のスキルアップを、そして学校全体のスキルアップを考えていきたい。	年間計画を明示し、保護者や生徒が学習の意義を理解し、より高いモチベーションを持って学習に望めるよう工夫していく。特に、小論文・探究的な学習の指導に当たっては国語科の協力を得てしっかりした体制作りが必要となる。
図書視聴覚	これまで同様、蔵書管理や配架構成の見直しなど、読書環境の改善に取り組んでいる。図書館便り等を発行し、新着図書の紹介等を行っており、図書貸出数が年 1000 冊を超えた。今後は幅広い利用者数の拡大に向け、積極的にＰＲ活動に取り組むなどして年間貸出数を伸ばしたい。　また、生徒図書委員はカウンター業務や蔵書管理、読書会の参加等よく活動している。学校図書館の利用日や開館時間をできるだけ多くし、居場所作りに努めたい。 　視聴覚分野では、この数年で放送機材はかなり更新されており、その運用もスムーズに行われてきた。本年は、視聴覚室の機材を利用しやすい環境に整える予定である。	常駐の専任司書がいないため、図書の管理や開館時間等、理想通りにはいかない部分がある。教員が図書館業務を兼任するには図書の取り扱いや専門ソフトの操作等、かなりの研修が必要である。 　視聴覚分野では、放送設備や配線の老朽化が著しいため、根本的な改善が必要である。
保健厚生	校舎内外の清掃活動など、概ね良好である。しかし､一部の生徒に生活環境へのマナーを含む美化意識の欠如が見られ、更なる清掃の徹底を指導している。また、ゴミの分別などにより環境問題の改善に取り組む意識を植え付けていく。 年２回の避難訓練では、全員が災害時に備えて避難経路を確認すると共に、安全の確保の方法を身につける。	学習環境の整備と環境美化意識を高めるために、日々の清掃を徹底する。 避難訓練においては、出火元がどこなのかを放送を聞いて確認し、安全にそして迅速に避難する意識を高めさせる指導をする。
教育相談	前年度、教育相談室においてカウンセリングを受けた生徒数は、延べ 47 名と増加傾向にある。人間関係等で悩みを抱える生徒が最も多かった。コミュニケーション能力に問題が見受けられ、最近では、特に自閉症スペクトラム（ＡＤＨＤ・高機能自閉症等）の疑いのある生徒が増えている。今後、早期発見及び対応が望まれる。 また、 校内研修（年間２回）、 ＳＣによる教育相談部の教員や担任、 保護者との面談等を通して生徒の困りごと、 対処の仕方についてアドバイスをいただくことができた。	問題を抱えた生徒の早期発見に心掛ける。 個々の生徒や保護者に対して共感的・多面的な理解を図る。また、生徒情報の共有化を重視し、教員間の共通理解を図る。
情報	成績管理においては、選択科目が多いことから科目担当者と選択生徒の登録に時間を要す。そのため、改善・工夫の余地がある。また、観点別評価に関係する登録や操作方法においては、今年度からの変更のため先生方がスムーズに入力できるように連絡する必要がある。Chromebook の研修等を実施し、管活用促進を図り ICT 教育の充実をさせる。Classi のシステム管理を行う。Classi においては、全校生徒と保護者に対して登録を積極的に呼びかけ、情報が届くようにする。教育情報ネットワークのアカウントの管理と、Google Classroom、Classi の運用を行う。	成績処理では、評定や欠課時数など誤がないように努める。Chromebook の有用的な活用方法を学び、先生方に研修等で伝えていく。生徒の情報等を適切に管理する。

広報広聴	広報広聴においては、小中学生及び地域住民に対して、本校の教育活動を発信することで、受検生を増やし、地域に理解応援され、その結果本校の教育活動を質量ともに発展させることが目標である。学校公開や学校説明会の行事に加え、広報紙の発行、ホームページの更新や充実など日常的な活動もある。 　業務の性質上パソコンに習熟している教員に仕事が集中しすぎてしまった。仕事や任務をこなすだけで、創造力を発揮し魅力ある広報活動を行うには時間がなかった。	広報活動には、学校の情報を生徒や保護者など、いわば内部向けと、地域や報道関係など、いわば外部部向けの２つがある 。少子化の影響で、生徒数が定員割れする中、特に小・中学校向けの広報活動に力を入れる必要がある。また広報活動を見直し、魅力があり、やりがいのあるものに変えていきたい。
働き方改革	令和３年度から働き方改革タスクフォースを設置し、働き方改革を進めてきた。その中で、ペーパーレス化、電子掲示板の活用、定時退勤日の設定、完全退勤時間の設定など進めてきた。	さらなる業務軽減を図りながら、教員の業務に対する負担感の軽減も課題である。

5　中期的目標

１　生徒の自主的活動を支援し、自分たちの学校を自分たちで築いていくという気概を持たせる。
２　学校行事等への積極的な参加を促すとともにキャリアパスポートを活用し、学校生活を豊かに送れるようにする。
３　生徒が意欲を持って学習に取り組めるよう生徒の意識調査等を行い、学習に対する相談や進路相談活動の充実を図る。
４　生徒の体力の向上を図るため、継続的な事業を計画立案し、実施する。
５　国公立大学等への合格者数を増やすため、目的意識を明確にしつつ、学習努力を継続するための支援をする。
６　教員のワークライフバランスの見直しと、働きやすい職場環境の構築を図り、働き方改革を推進する。

6　本年度の重点目標

重　点　項　目	重　　点　　目　　標
学力向上 　生徒の学力向上に努める。そのために学習指導の充実を図り、手段としてＩＣＴ機器の効果的な活用に取り組む。	◇教科指導の充実・学力向上 　ア　指導体制の充実と授業時間の確保 　イ　アクティブ・ラーニングを取り入れた指導方法の改善と工夫 　ウ　自学自習と学習活動の習慣化 ◇授業第一主義 　ア　予習をして授業に臨み、復習をして学力を身に付けさせる鹿島スタイルの浸透
進路指導の充実 （大学進学支援及び幅広い進路希望支援） 　自分を見つめ、将来に対する目的意識を持ち、進学及び就職等の進路を自ら選択・決定し、自己実現ができるよう指導の充実に努める。	◇進路指導の強化 　ア　個人面談等を繰り返し行い、進学目標の早期明確化と、その目標実現に向けた効果的・継続的な取組 ◇就職指導の充実 　ア　資格取得の奨励や望ましい職業観・勤労観の育成を推進
授業改善	◇授業満足度（ＫＰＩ）３．４４以上の達成

重　点　項　目	重　　点　　目　　標
基本的生活習慣の確立 （「み・そ・あ・じ」指導の徹底） 学校として統一的な指導体制を堅持し、家庭や関係機関との連携を組織的に進めながら、自主的・自律的かつ責任ある行動のとれる人間の育成を図る。	◇秩序を重んじ、自ら律する心や他人を思いやる心の育成 ア　人権尊重（偏見・差別をなくす）　イ　規律の遵守 ◇健康・安全意識の高揚と、交通安全・防災教育の充実 ア　交通安全教育の充実　イ　防災教育の充実 ウ　性教育（エイズ教育等）の推進　エ　薬物乱用防止教育の推進
特別活動・部活動の振興 （学校生活の充実支援） 特別活動・部活動を積極的に推進し、全人的発達に努める。	◇ホームルーム・生徒会活動の活性化 ◇部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進 ア　施設設備の効率的利用 イ　他校・地域の行事やボランティア活動の理解と参加
広報広聴・生徒募集活動の充実	◇本校への理解促進を図るため、情報収集及び情報発信を積極的に行う。 ◇生徒募集活動を工夫し、計画的に及び随時行う。
コンプライアンスの徹底（「たいせつです」運動）及び働き方改革の推進	◇「たいせつです」運動の推進を含め教職員のコンプライアンス意識を高め、服務規程の確保に努めるとともに、教職員の「働き過ぎ」を防ぐなど働き方改革を推進する。 「たいせつです」：体罰の根絶・飲酒運転の根絶・セクハラ等の根絶・使い込みの根絶・データ漏洩の防止・スピード違反の防止
学校組織運営の見直し	◇校務分掌・学年等の組織内の業務平準化への取組の推進 ◇職場環境整備の推進
デジタル環境の整備と教育内容の充実	◇デジタル環境の整備 ア　３Ｄプリンターや高性能パソコン等を講義室Ｃに配備し、STEAM lab としていつでも生徒が利用できる環境を整える。活用にあたっては、生徒、教員に向けた研修を実施し、授業、探究活動、部活動等で自由に活用できることとする。 イ　総合的な探究の時間では、アイディアを具体化する場面において、３Ｄプリンタ等を活用するなど、ICT 機器の活用を促す。 ウ　企業等との連携により、ICT 機器の活用研修を行う。 エ　探究的な学び等において、関係機関等との連携協力体制を活用する。 オ　情報に関する学会等へ参加することで大学、企業や研究機関と連携し、デジタル関連の活動を通して生徒が自らのアイディアを具体化できる環境の整備を進める。 カ　本校で実施する学校公開、小中学生向け学校説明会において、STEAM lab による実習を実施する。 ◇教育内容の充実 ア　これまで学校設定科目「プロジェクト-K」で育成してきた、様々な実験を通して大学で必要なレポート作成の基礎や自ら課題を発見し、解決する力を強化する。 イ　根拠のある解決策の提案や、データの活用等について、大学・専門機関・企業等と連携したうえで、ICT 機器を効果的に活用しながら、科学的根拠をもって課題解決に取り組む、分野横断的な探究を進めることのできる環境の整備を推進 ウ　今年度から、スポット的に連携予定大学の教員によるデータ分析に係る授業を実施し、次年度以降の本格実施につなげる。 エ　県内外の大学や研究機関との関係を強化し、生徒の進路希望に応じた研究室訪問や、学生メンターによる探究サポートなどを進める。 オ　総合的な探究の時間及び情報Ｉにおいて、情報モラルを取り上げて学習を行う。